

コミュニケーション

ステップ

1 2 3

授業

ステップ

1 2 3

## 千葉県・私立 市川中学校・高校

学科

- 普通科

活用ICTツール

- Classi
- Google Workspace for Education
- Libry

この事例に  
関連するキーワード

大規模校／推薦入試指導／  
時間短縮／負担軽減／双方  
向

## ICT活用を3段階で整理し、学校全体で推進

インプット主体の授業から生徒の能動的な学習中心の授業へと転換を図るため、ティーチングからコーチングへの教師の指導意識の改革、「板書を写す」から「ポイントをメモする」への生徒の学習意識の改革を重視。その意識改革を促進するツールとしてICTを活用している。

教師、生徒によって多様な学習観がある中で、すべての授業で無理なくICTを活用していくために、ICT活用の状況を3段階に整理。①電子黒板でパソコン画面を共有（教師から生徒へ）、②生徒にタブレットを活用させて課題提出（生徒から教師へ）、③生徒と教師の双方向の議論（生徒と教師が双方向に）のステップで、全校的なICT活用を推進している。

①②段階が実現した授業では、板書や課題回収の時間が短縮。捻出された時間はグループワークや演習に充てられている。③段階では、ClassiNOTEを用いて、生徒の解答の読み比べを行ったり（国語）、生徒が書いた図説を教師が授業中に添削したり（地学）している。

ホームルーム活動におけるICT活用も、①校内グループを使った情報共有、②生徒と教師のメッセージのやりとりや面談、③ポートフォリオ機能に生徒が記入した内容を調査書などで活用、という3段階で進められている。2021年度入試では、東京大学2人、国立大学医学部医学科7人を含む31人が、学校推薦型・総合型選抜で合格を果たした。

さらに  
詳しくは  
こちらで▶



授業

ステップ

1 2 3

授業外学習  
進路指導・探究

ステップ

1 2 3

## 佐賀県立 佐賀農業高校

学科

- 農業科学科
- 食品科学科
- 環境工学科

活用ICTツール

- Classi
- Microsoft Teams

この事例に  
関連するキーワード

専門高校／1人1台／探究学  
習／課題配信／ポートフォ  
リオ

## 授業や朝学習、リモート学習で生徒が自ら学びを深める

生徒は1人1台、学習用パソコンを持ち、日々の授業・家庭学習・実習に、そして、農業高校として初めて指定されたスーパーグローバルハイスクール（SGH）の活動に積極的に活用している（\*1）。登校するとまず、生徒はClassiに収録された学び直し用教材「マナトレ」を用いて、毎朝15分間の自主学習時間に臨む。教師は、進捗や成績をClassiで把握し、生徒一人ひとりの状況に応じた指導を行っている。生徒向けアンケートでは、1年生の95.8%が「マナトレ」での自主学習でプラスの効果があったと回答している。

授業で生徒の意見を集約する際などには、Classiアンケートを使用。それにより、限られた授業時間内で全生徒の意見を収集することが実現できている。

新型コロナウイルスの感染拡大による2020年3月の臨時休業中は、Webテストで使用できる約200問の4択式の問題をClassiから配信し、生徒の約7割が自宅においてすべての問題に取り組んだ。1人1台のパソコン使用によって、教師と生徒の双方向コミュニケーションを維持してきた同校だが、今後は日々の授業はもちろん、海外での農業・語学研修、全国高校生フォーラムへの参加など、3年間の活動のすべてをClassiポートフォリオに集約し、生徒の自発的な振り返りを支援していく考えだ。

さらに  
詳しくは  
こちらで▶



\*1 現在はSGH事業は終了。

各校では、生徒の学力や希望進路、ICTの導入状況に応じて、自校に合った個に応じた学びの導入を進めている。  
ここでは、6校の実践例を紹介する。

## 授業外学習 進路指導・探究

ステップ

1

2

3

### 宮城県 柴田高校

#### 学科

- 普通科
- 体育科

#### 活用ICTツール

- Classi
- Google Workspace for Education

#### この事例に 関連するキーワード

基礎学力向上／学力の多層化／課題配信

## AIを活用した個に応じた課題配信で学習意欲を高める

少子化に伴う二次募集の実施等により、入学する生徒の学力差が大きくなる中、すべての生徒に同じ学習課題を提供することの難しさを痛感していた同校は、生徒の学力に応じた課外授業「週末課題」の取り組みを開始した。毎週末、教師が Classi で生徒ごとに個別課題の対象教科、配信講義数、取り組み期限を設定すると、Classi が生徒に必要なレベルの学習動画を自動でピックアップして配信する。教師は、翌週の課外授業で生徒の取り組み状況を確認しながら、生徒一人ひとりに声かけを行う。これまで教師が行っていた個別課題の選定・作成に AI を活用している。さらに、好きな時間に繰り返し視聴できる動画教材を生徒に視聴させることで、課外授業の効果をアップさせるなど、ICT を活用して「個に応じた学び」を業務負担を増やすことなく推進している。

以前は、1年生の時にはよい緊張感を保ちながら学習に取り組めていても、2年生になって緊張感が緩むと、学習に取り組まなくなってしまう生徒が多かった。しかし、個に応じた週末課題の提供と、一人ひとりの学習進度に合わせた声かけを行うようになってからは、「先生は、自分のことを見てくれている」という意識が生まれ、高い学習意欲を維持できている生徒が増えているという。

さらに  
詳しくは  
こちらで▶



## 授業外学習 進路指導・探究

ステップ

1

2

3

### 群馬県立 桐生高校

#### 学科

- 普通科
- 理数科

#### 活用ICTツール

- Classi
- Google Workspace for Education
- スタディサプリ

#### この事例に 関連するキーワード

探究学習／ポートフォリオ  
／志望理由書／観点別評価

## 探究学習の成果を蓄積し、観点別評価と出願に生かす

普通科、理数科の両科においてスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の活動を展開し、生徒は幅広い分野における探究的な学習に取り組んでいる。3年間を通じた探究学習では、「学びの技法」として、聞く力・課題発見力・読解力・情報収集力・情報整理力・データ分析力・執筆力・プレゼンテーション力・グループ学習・ディスカッションなどを身につけ、1年次は地元桐生について、2年次は広く世の中に視野を広げて課題を自ら設定し、探究活動を行う。

探究学習における情報共有と、学びや気づきの蓄積に活用しているのは Classi だ。校内グループで、生徒同士による進捗の報告や教師からのアドバイス、生徒が作成したレポートの提出などの情報共有を行っている。また、探究学習においては、ポートフォリオや行動観察、自己評価が評価の対象になるが、毎時間の活動のリフレクションを Classi に入力し、活動記録を蓄積。教師は特に、主体的に学習に取り組む態度の評価の材料としている。生徒自身にとっては、取り組みを積み上げていくことで、それぞれの活動で何を学んだか、次に生かすべき反省は何かを言語化することができている。そうしたポートフォリオは、生徒の大学入試の特別選抜出願時の志望理由書や活動報告書などの作成に役立っている。また、教師は、進路検討会や出願後の面接対策などに活用している。

さらに  
詳しくは  
こちらで▶



授業外学習  
進路指導・探究

ステップ

1 2 3

兵庫県・私立  
甲南高校・中学校

学科

- 普通科

活用ICTツール

- Classi
- Feelnote
- MetaMoJi Classroom

この事例に  
関連するキーワード

1人1台/課題配信/生徒把握/基礎学力向上

自動化・最適化された課題配信と教師の声かけで基礎学力を向上

高大接続改革への対応や校務効率化のために、2017年度から校内のICT化に着手し、教育クラウドサービスを使用した基礎学力向上の取り組みを本格的に開始。まず、毎朝実施している小テストと進研模試対策のテストを、タブレット端末のアプリ経由で配信されるWebテストに切り替えた。ボタン1つでそれぞれの生徒にふさわしい問題を配信することができ、採点も自動で行われるため、業務負荷の軽減に成功。さらに、生徒の学習時間、学習履歴、平均点数を集計し、クラス対抗や個人対抗で競わせるなどの「ゲーミフィケーション」の要素を取り入れることにより、生徒のモチベーションを喚起し、学力向上を実現している。

ICTによる「自動化・可視化・最適化」で捻出された時間を生かして、教師にしかできない声かけを強化している。ICTを介してキャッチした生徒の学習時間の変化などを踏まえることで、声かけの内容はより一層生徒の実態に合ったものになり、教師の声が生徒に響きやすくなっている。

高校1年生からWebテストを導入した学年では、高校1年時と比較して平均GTZ(\*2)がB1からA2へと2段階向上し、国立大学の合格者が過去最高の人数に到達するなどの成果が得られている。

さらに詳しくはこちらで▶



コミュニケーション

ステップ

1 2 3

佐賀県立  
致遠館中学校・高校

学科

- 普通科

活用ICTツール

- Classi
- Libry
- Microsoft Teams

この事例に  
関連するキーワード

1人1台/生徒把握/Webテスト/面談

客観データに基づいた学習・進路指導をスピーディーに展開

1人1台の学習用パソコンの環境の下、ClassiとMicrosoft Teamsを目的に応じて使い分けられている。コロナ禍でのオンライン授業やオンライン文化祭の実施など、クラス単位をオンラインでつなぐ際にMicrosoft Teamsを活用した。一方、Classiは、校務や授業を補助する道具として利用している。例えば、「生徒カルテ」に記録された生徒の学習記録や日々の言葉、さらには志望学部・学科の変化などから、担任が生徒の変化を早期に発見して面談につなげたり、生徒の学習意欲を高めるための丁寧な声かけなどを行ったりしている。

また、Classiを用いたWebテストも積極的に実施。Webテストは即時の採点・分析が可能のため、教師は正答率などから重点的に解説する問題を即決でき、模擬試験と受験後の指導が切れ目なく行える。合わせて、Webテストの誤答率と生徒カルテの学習時間などの客観的なデータを分析することで、授業や家庭学習課題の改善につなげている。

ICTを活用して生徒の状況をつぶさに把握しながら、Webテストで学習のPDCAサイクルを素早く回すことで、生徒が主体的に学習を進められるよう支援している同校だが、そうした学校風土を継続させるために、ICT担当者を毎年入れ替えるなど、各学年・分掌でのICT活用力を高める工夫をしている。

さらに詳しくはこちらで▶



\* 2 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1～D3」の15段階で評価される。

ウェブで  
公開中!

先進校から学ぶ  
失敗しないGIGAスクール対応



お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17